

坂総合病院医学生だより



〈発行〉  
**坂総合病院**  
**医学生と共に歩む委員会**  
連絡先・塩釜市錦町16-5  
☎022-367-9007  
 2012年4月1日  
 No. 60



新  
 し  
 い  
 一  
 歩  
 を  
 踏  
 み  
 出  
 そ  
 う  
 〽  
 芽  
 吹  
 き  
 の  
 春  
 〽

# 震災後の新たな出会い



坂総合病院 院長 今田 隆一

東日本大震災からもう1年が経とうとしています。振り返ってみれば長くつらい毎日でした。特に最初の2週間は特異な精神状態にあったようで記憶も切れ切れしかありません。最近、震災直後に支援に来ていただいた神奈川の医師に久しぶりに声をかけていただきましたが、当時の私の様子を次のように話してくれました。「震災から数日で支援に入ったのだけれど先生は震災によるハイな状態にあって大変でした。見かねて『院長は早く一旦、帰宅させたほうがよい』と周りにいいました」と。こうした異常な心理

状態は私のみならず大なり小なり職員には共通してみられたものだったと思います。研修医を始め、若い職員は特に大変だったのではないのでしょうか。私自身は、発災から20日経過した3月31日の全職員会議で見も世もない涙を流してからほぼ平常に戻れたのではなかったかと思っています。民医連を中心とした県外からの支援者の方々は、被災者のみならず私たち職員へのケアも同時にしていただいて本当にありがたいことでした。震災後の1年間はこうした方々との出会いに恵まれた日々でもありました。中でも

印象的だった医療関係者外の3人の方を紹介します。

最初の方はA市の商工会議所会頭クワバラさんです。「商工会議所なんて保守の牙城ではないか」と内心びくびくしながらの訪問でした。「たかが病院長が復興の件で相談したいなどは・・・」というすこしへりくだった私に対してクワバラさんはからからと笑って「そんなことはないですよ」と軽いなし、打ち合わせ会の開催を快諾してくれました。当日、最近作った私の顔写真入りの病院のパンフを手渡すとそれをじっとみて「先生、選挙でもでんの」とまじめに聞いてきました。さわやかな笑顔と頼もしそうながっちりとした手が印象的でした。

次はB神社の宮司カミさんです。神社といえは元朝まいりなどのほかは花見にしか行かないところでした。待っていると宮司の普段着姿でカミさんが登場。「A市の復興といえはB神社の役割は欠かせません」というと花祭りは中止したこと、みなと祭りだけはやりたいことなどを切々とお話になる。さらに「県の依頼で仏教やキリスト教など、他の宗教家と一緒に県民の心の相談にあたっているのです」と。ふむふむ

と感心して話をうかがいました。

最後はC町の商工会会長アズミさんです。「坂病院の院長です」というと、にこっとして「いつも町民がお世話になっています」。それから1時間、地域の惨状を飲食店、一般商店、大規模店舗、工場地帯とすべてにわたって早口で話してくれました。最後に「共産党さんは（坂病院のことをそのように誤解しているらしいので修正しましたが、構わず）本当によくやってくれているよね。この間も志位さんが多額の義捐金を送ってくれてさあ、自民党のやつらに言ったんだあ、おめえらはなんの役にもたたねえってさ」

まだまだ復旧・復興には遠いのが現実です。しかしこうした方々と会ってみると地域のあちこちで確かな歩みが始まっているというのも事実です。改めて復旧と復興にむけた取り組みを地域の方々と進めてまいりたいと思っています。

医学生の皆さん、復興にはまだまだ時間がかかります。学生時代に多くの見聞きし医師としての素養を身につけて下さい。いつか同じ医師として働ける日を楽しみにしています。

# 入学おめでとう

東北大学医学部3年 花木 安羅太



新入生の皆さん、医学部入学おめでとうございます。いよいよ始まる学生生活、大いにたのしんでください。様々なことを学んだり、仲間と部活やサークルに打ち込んだり、充実した日々を過ごすことと思います。そんな日々の中で皆さんに意識してほしいことがあります。どんな医師になりたいのか、どんな医療を行いたいのか、どうして医師になりたいのか。新入生である今、思っていることを忘れずに、これからの学生生活でさらに深めていってください。そして、卒業したときに胸をはって医師としてスタートできるよう悔いのない学生生活を送ってほしいと思います。

改めてご入学おめでとうございます。

# 研修医一年目をふりかえって

## ～日々、成長中～



### ★あれから一年が経ち

僕は、在宅往診から専門医療まで幅広くみることができ、医師だけでなく、様々な業種が仲良く、楽しそうに働いているところに惹かれ、この病院に決めました。

2011年3月、東日本大震災後、僕のこの病院での生活が一足早く始まりました。医学部は卒業したものの現場を知らない僕は、何もできず、ひたすら物資を運ぶだけでした。訪れた避難所でも話を聞くことしかできず、悔しい毎日でした。そんな中で4月から例年よりやや遅れてオリエンテーションが始まり、5月から病棟業務、見習い当直が始まりました。それは同時に辛いけど、新鮮で楽しい日々の始まりでもありました。

### ★成長を実感

最初の4ヵ月は毎週カンファレンスでできない自分に落ち込み、当直では何もわからないまま見習いの期間が終わり独り立ちとなりました。8月に独り立ちをした後も些細なことでも病棟、救急車対応の上級医に相談しながらできる環境であったのでなんとかこなしていました。その頃になると、少しずつできることが増えてきて楽しいと思えることも多くなってきました。次の3ヵ月は検査が多く、急性期の患者が多く、忙しい科でしたが、できる手技が増えるにつれて楽しくなっていました。内科外来、救急車当番も始まりました。

その次の2ヵ月は子供達に囲まれて、母親と子供の対応の仕方がすごく勉強になる科でした。そして研修が始まって約1年が経ちました。現在、僕は毎日訪れるたくさんの救急車と必死に

戦っております。そのおかげで最初は1台も来ないように願っていた救急車をとりあえずはなんとか診ることができるという度胸がついてきました。



### ★充実の日々

まだまだできないことは多く、辛いことも多いですが、日々成長を実感でき、充実した毎日を過ごしています。

こんな経験ができるのも、経験豊富な上級医、看護師、検査技師、放射線技師、薬剤師、事務の方々がサポートしてくれるおかげだと実感しています。

まだまだ未熟な僕ですが、これからの医師としての人生の中で、当院で得た知識や経験が基礎となっていくのだと思いますし、この病院を選んだおかげで、楽しい研修医生活を送っています。

皆さんもたった一度の人生、悔いのないように歩んでください。

2011年 金沢医科大学卒業  
児玉 貴之 仙台出身

## 職場紹介

# 療養不安解消



坂総合病院 医療相談室 本間信臣

今回は、坂総合病院医療相談室の紹介をさせていただきたいと思います。

医療相談室は5名の相談員（ソーシャルワーカー）が在籍しています。私たちソーシャルワーカーは、「社会福祉士」という国家資格を所有しています。社会福祉士の国家試験合格率は全国平均で25～30%です……。

坂総合病院医療相談室の仕事は、病気や怪我等から生じる生活上の様々な問題に対して、治療者とは異なる立場から、不安や困りごとに対しての支援を行っており、適切な社会資源を提供し利用することで、早期の社会復帰や社会参加を支援しています。ご相談は患者様だけでなく、ご家族の方も併せて応じています。具体的な内容は、医療費の相談、公的制度（生活保護、介護保険等）の相談、療養生活の不安、社会復帰への不安等について総合的な相談を行っています。

医療相談室では上記内容の相談等、多種多様の相談に応じています。1日の相談件数は、約30～45件ほどで、1月にすると相談件数は約1000件を越えます。その中でも、6割ほどを占めているのが、入院生活後の退院先・退院調整です。「今までは自宅で看ていたが、病状の変化によって自宅では看られない、介護保険について教えてほしい、施設や病院を紹介してほしい」との相談を受けます。その場合でも患者さん、ご家族の気持ちに寄り添いながら、その方にあった支援をしております。

病院内では、医師・看護師をはじめ、薬剤師、リハビリテーションのスタッフ、栄養士、など様々な専門職との連携を構築していきます。病院外では、他の医療機関や公的機関、在宅で支援するケアマネージャー、職場、社会復帰施設、介護施設や地域の活動など、患者さまやご家族に適切な人やと連携していく体制を構築します。坂総合病院は院内外、緊密な連携を取れるため、「チーム医療」を間近で体験できると思います。

以上が医療相談室での仕事です。疑問等多々あったかと思いますが、医療相談室の仕事についてもっと聞きたい、気になることがありましたら、いつでもお待ちしておりますので、当院に来られる際は立ち寄ってみてください。医療相談室一同、みなさんのお越しをお待ちしております。

## 職場紹介②

# 安全な薬の提供



医学生のみなさん、こんにちは。今回は坂総合病院 薬剤部を紹介します。

薬剤部では入院患者さんを中心に、内服薬や注射薬の調剤の他、化学療法を受けられる患者さんの抗癌剤の調整を行っています。病棟には担当薬剤師として1名が常駐しており、患者さんに安心してお薬を服用していただくために、わかりやすく正確な情報提供を日々心がけ、薬の責任者として、より安全で適切な薬物療法の提供に努めています。

また、医療チームの一員として糖尿病、NST（栄養サポートチーム）、ICT（感染制御チーム）、緩和ケアなど各種委員会へ積極的に参加し、医師や看護師、コメディカルとの連携を通じて病院全体の医療の質の向上に貢献しています。

薬剤部はみんな明るく、活気のある職場です。みなさんが病院に来られた際には、ぜひ一度遊びに来てください。